

# JOA information

日本オリエンテーリング協会からのお知らせ

木村佳司



Japan Orienteering Association

日本オリエンテーリング協会発表の内容からピックアップして掲載します。

<http://www.orienteering.or.jp/>

## JOA 強化委員会方針示される

2013年10月31日

### 1. ヴィジョン

アジアのオリエンテーリングにおける歴史、実力ともにNo.1の国を目指し、オリエンテーリングの世界的な競技スポーツとしての地位確立に貢献するため、アジアを代表した存在感を競技力で示す。

### 2. 目標

#### 1) WOC(世界選手権)

フォレスト種目:

男女とも4年(2018年)以内にディヴィジョン2入りすること。

スプリント種目:

WOCで4年(2018年)以内に決勝進出を複数選手(6名中2名以上)

混合リレー:

20位(ディヴィジョン2相当順位)

リレー種目

男女ともアジア地区でNo.1の成績および全体で20位

#### \*「ディヴィジョン2とは?」

ディヴィジョンとは、世界選手権における個人フォレスト種目(ミドル、ロング)の国別出場人数枠を決めるランクで、各国に男女別に与えられます。ディヴィジョン1は8カ国で各国3名、ディヴィジョン2は、14カ国で各国2名、ディヴィジョン3はそれ以外の国で各国1名に個人枠が与えられます。ディヴィジョンは、リレー及び個人(ロング、ミドル)の過去2年のWOC成績をポイント化することで決まります。日本は現在男女ともディヴィジョン3です。

#### 2) AsOC(アジア選手権)

(2014年、2016年、2018年)

個人種目:

男女とも少なくとも1名の優勝

それに伴うWOCでのAsOC枠獲得

リレー種目:優勝

#### 3) JWOC(ジュニア世界選手権)

JWOCは選手の今後の成長を見据えた、中長期的な視野で目標を定める。具体的な目標は強化委員会がジュニアコーチと協議して各年度の遠征チームに対して定める。

### 3. 強化策

#### 1) アドバンスト選手登録について

強化委員会は、JOAの競技者登録をした選手の中から、競技力向上の意志を持ち、Aクラスのコースを自力で完走できる技術、体力のある選手を対象に強化活動を行っていく。希望する選手は「アドバンスト選手登録」を行うことで対象選手となることができる。従来のJOA合宿や日本代表選考会への参加は、この「アドバンスト選手登録」を行った選手が対象になるので、JWOC、WOC、AsOCの代表選手になるためには基本的にこの登録が必要となる。

募集は2013年12月から受付予定である。登録は随時行うが、WOC、JWOC、AsOCの代表選考会に出場するための受付期限は別途設ける(WOCは2014年1月、JWOC、AsOCは2014年3月の予定)。

具体的な選考方法、今後の合宿予定などはJOAのwebサイトをご覧ください。

## JOA 年末対話集会開催します

主催:日本オリエンテーリング協会

日時:平成25年12月14日(土)

(全日本リレー前日)

12時00分 受付

12時30分~14時30分 対話集会

場所:立正大学大前校舎石橋湛山講堂(全日本リレー開会式の会場です)

JR山手線大崎駅より徒歩約8分

1. 現代スポーツとオリエンテーリングの存在意義  
(JOA会長 山西哲郎)
2. 各活動領域の報告  
(担当業務執行理事)
3. JOAの現状とオリエンテーリン

グが目指すもの

(JOA業務執行理事 村越真)

#### 4. 質疑応答

協会会員・フロアとの討議

テーマ

「今、JOAの存在意義と果たすべき役割」

スポーツ基本法の設定(平成23年)、そして7年後の東京オリンピック開催の決定等、によって我が国のスポーツ界は発展と変動の時代を迎え、あらゆるスポーツが国民に注目されています。われわれ日本オリエンテーリング協会は日本体育協会の一団体であり、また、この夏、日本オリンピック委員会(JOC)の加盟団体として承認されました。オリエンテーリング活動をさらに活性化させると同時に、日本スポーツ運動の中心的存在として貢献を進めていく立場となったのです。

そこで、本協会の現状を確認すると同時に、現在から未来にかけて何をすべきかを自ら問いかけ語り合う協会の集いを、全日本リレーに合わせて開催します。

## 「森を走ろう」シンポジウム開催

恒例の集いを本年度も開催いたします!

日時 平成26年1月13日 13-18時

場所 立正大学大崎校舎(東京)

テーマ

野外アスレティックスポーツの連携可能性を探る

主旨

山岳、トレイル、オリエンテーリング、クロスカントリー・・・のスポーツの共有できる特性を出し合い連携を図り、共通認識と方法を融合し、持って日本のスポーツ界に貢献するための協議会を構想します。

(記事:木村佳司)